

公開シンポジウム

テーマ:「生物多様性保全における環境アセスメントの役割」

○開催日時: 2010年9月18日(土) 13:30~17:00

○開催場所: 名古屋大学東山キャンパス IB電子情報館
(地下鉄名城線名古屋大学駅3番出口より徒歩1分)

http://web-honbu.jimu.nagoya-u.ac.jp/fmd/2skikakuka/campustosisetu/image%20campussisetu/campus_closeup/c3no135.pdf

○参加費: 無料(ただし、懇親会費は別途4,000円)

○趣旨

2010年は国連が定めた「国際生物多様性年」であり、名古屋市では生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が開催されるなど生物多様性の保全に関連した取り組みが国内外において活発化している。一方、わが国は環境影響評価法の見直しにあたり、2009年6月に「環境影響評価制度総合研究報告書(案)」が策定され、環境影響評価制度の課題を明らかにしているが、生物多様性分野においては特定の貴重な地域のアセスのスクリーニング基準、定量評価、定量的モニタリング、定量的ミティゲーション、SEAの活用など数多くの課題が残っている。そこで本シンポジウムでは、パネリストの方々に各方面の視点から生物多様性保全に向けた課題について講演して頂くとともに、生物多様性保全における環境アセスメントの役割について議論することを目的とする。

○大会プログラム

13:30- 開会挨拶 鹿島茂(環境アセスメント学会会長・中央大学教授)

13:35- 開会挨拶 北川邦行(名古屋大学エコトピア科学研究所副所長教授)

13:40- 趣旨説明 林希一郎 コーディネータ(名古屋大学エコトピア科学研究所教授)

13:50- 各パネリストの発表(各20分)

コーディネータ: 林希一郎(名古屋大学エコトピア科学研究所教授)

田中章(東京都市大学准教授)

- ・辻本哲郎(名古屋大学教授)
- ・稲垣隆司(前愛知県副知事・愛知工業大学客員教授)
- ・梅原徹(株式会社建設環境研究所大阪支店環境技術部技師長・特定非営利活動法人大阪自然史センター理事・兵庫県立大学大学院特任教授)
- ・伊藤泰志(富士通エフ・アイ・ピー株式会社環境システム部環境経営コンサルグループプロジェクト課長)
- ・吉田正人(筑波大学准教授・日本自然保護協会NGO理事)

15:30- 休憩

15:40- パネルディスカッション

16:15- 会場全体でのディスカッション

16:45- 総括 田中章 コーディネータ(東京都市大学准教授)

16:55- 閉会挨拶 原科幸彦(環境アセスメント学会副会長・東京工業大学教授)

17:30- 懇親会(シンポジオンレストラン⇒ダイニングフォレストへ変更)※希望者のみ(受付 17:00~)

主催: 環境アセスメント学会、名古屋大学エコトピア科学研究所

※本シンポジウムは「生物多様性条約第10回締約国会議」(COP10)のパートナーシップ事業として認定されています

<参加申込み方法>

当日受付可ですが、事前に電子メールにて御名前、御所属、懇親会参加の有無をご連絡下さい。

※申込先: 事務局 伊東(名古屋大学エコトピア科学研究所) e-mail: jsia2010@esi.nagoya-u.ac.jp